

大志を育む



令和3年3月3日

教育委員会日より

No. 39

発行：北広島市教育委員会

小中一貫教育導入3年目を振り返って

小中一貫・教育施策推進課 課長 富田 英禎

小中一貫教育の全市一斉導入から間もなく3年目が終わります。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により年度当初に臨時休業を余儀なくされ、秋から冬にかけて市内の児童生徒にも感染者が発生するなど、教育活動の実施には厳しい状況が続いていますが、昨年11月の小中一貫教育推進月間を中心に、これまでの積み上げに基づくとともに新たな視点での工夫を加えた取組・実践を意欲的に行っていただきました。私もいくつかの授業を参観する機会をいただきましたが、今までに例のない一味違った授業もあり、こちら目から鱗が落ちる思いでした。様々な制約がある中で何ができるかを真剣に考え、実践に取り組んでいただいた各校の教職員の皆様に、この場を借りて改めてお礼を申し上げます。

さて、先日、中央教育審議会答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』が出されました。その中では、各論の一項目に「9年間を見通した新時代の義務教育の在り方について」として、「義務教育の目的・目標を踏まえ、育成を目指す資質・能力を確実に育むためには、各教科等の系統を踏まえ、学

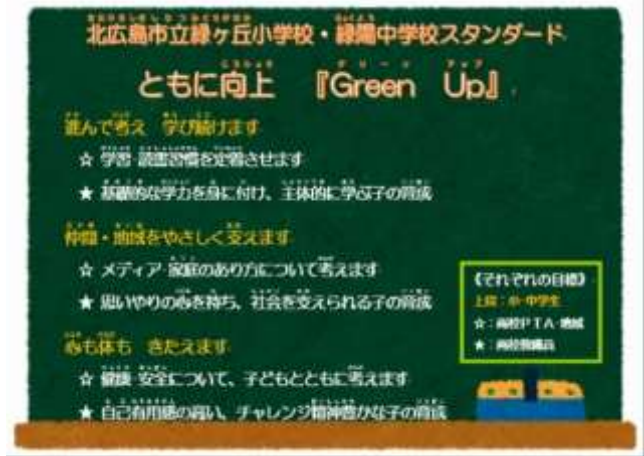


年間・学校間の接続を円滑なものとし、義務教育9年間を見通した教育課程を支える指導体制の構築が必要である。」「(小学校高学年からの教科担任制の)導入に当たっては、～義務教育学校化や広域・複数校による小中一貫教育の導入を含めた小中学校の連携を促進する必要がある。」と示されており、北広島市で取り組んでいる小中一貫教育は、まさに国が推進しようとしているこれからの学校教育を具現化しているものと捉えています。

いよいよ、11月には小中一貫教育全国サミットが北広島市で開催され、各校の取組を全国の皆様にご覧いただくこととなります。小中一貫教育の「真価」を発揮するのはもちろんですが、小中一貫教育の取組をより継続的・発展的に進めるための大きな機会と捉え、児童生徒に義務教育9年間を通して「生きる力」を育めるよう、教育委員会も学校とともに一歩前へ進んでいきたいと考えていますので、よろしくお願い致します。

緑陽中学校区

小中一貫教育の取組



緑陽中学校区（緑陽中、緑ヶ丘小）では、平成28年度より、「ともに向上『Green Up』」を合言葉に、右図のような3つのスタンダードを設定しています。児童生徒、教職員、PTAが一体となって緑陽中学校区の目指す子ども像「ともに学び 心豊かに たくましく生きる子ども」の育成にむけて、9年間を通じた教育課程を編成し、それに基づく系統的な教育を行っています。

また令和2年度から、目指す子ども像の具現化を地域とともに進めるため、コミュニティ・スクールの取組も積極的に行っています。

教職員の合同研修

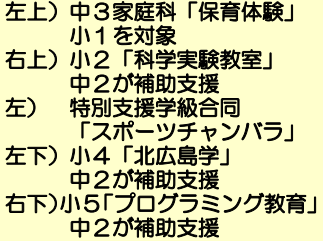


11月 小中合同研究授業 4月・8月・11月 小中合同研修会

9年間の継続的・系統的な指導や、各種検査結果の分析等、児童生徒の実態把握に基づく授業改善や指導の重点化に、小中の全職員が研修を深めながら取り組みました。

児童・生徒の交流、合同の取組

小中一貫教育推進月間の授業実践として、児童・生徒が全員中学校に登校する日を設けました。一緒に取り組む活動を取り入れることで児童生徒の一体感が生まれました。また上級生としての自覚や、下級生の上級生に対する憧れや目標の意識が高まりました。（令和2年度は、既存の「かぞく de manabi」の活動を活用）



左上) 中3家庭科「保育体験」小1を対象
 右上) 小2「科学実験教室」中2が補助支援
 左) 特別支援学級合同「スポーツチャンバラ」
 左下) 小4「北広島学」中2が補助支援
 右下) 小5「プログラミング教育」中2が補助支援

中学校への見学



10月 小2生活科緑陽中探検 10月 小6緑陽中部活動見学

児童が中学校の施設や活動を見学することで、中学校進学への不安軽減や、目標意識の向上につながりました。

コミュニティ・スクールの取組



1月 英語検定（緑陽中にて） 1月 漢字検定（緑ヶ丘小にて）

児童生徒と一緒に取組を行っている「英語検定」や「漢字検定」において、地域の方が検定員として参画しました。

合同PTAの取組

メディアに対する取組として小学校は夏冬休みに、中学校は定期試験前に「アウトメディアチャレンジ」を実施し、家庭でも一貫した取組を行いました。

